

アフリカ飢餓救済募金による倉庫視察報告

富山県農協婦人組織協議会会長 竹部喜代子

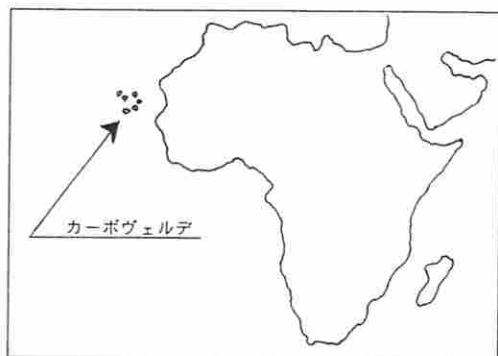
昭和60年に運動を展開した農協婦人部・農協青年部アフリカ飢餓救済募金による援助倉庫3棟が、アフリカのカーボヴェルデ共和国に昭和63年末に完成したので「是非見に来て欲しい」との招聘が全農協婦にきていました。平成3年のICA女性委員会が、スペインの首都マドリッドで開催されるに当り、委員会への出席と併せて、この援助倉庫の視察が実現し、平成2年9月19日～21日の3日間にわたり訪問してきました。一行は、家の光文化センター所長鈴木文夫氏が取材で参加され、全中国際部からは通訳として派遣された松田昌裕氏と私の3人で渡りました。

以下、そのあらましを報告します。

カーボヴェルデ共和国の概要

西アフリカのセネガル共和国から西方約600kmの大西洋上に位置し、15の火山群島から成る国で、このうち人の住んでいるのは9島といわれています。1456年、ポルトガル人によって発見され、ポルトガル領として統治されて

図1 カーボヴェルデの位置(首都プライヤ)



いましたが1975年に独立した国です。

面積は、日本の約100分の1の4,033km²で、人口は35万人、人種はポルトガルと黒人の混血が70%を占めており、言語はポルトガル語、宗教はカトリック教です。主な産業ではバナナとコーヒー、漁業のマグロと大正エビで、製造業は国内総生産の5%に過ぎません。天然資源が殆ど存在せず、塩が重要な産物で、ホズラン・石灰岩、カオリンがいくらか産出する程度といわれています。

国民総生産の一人当りは7万5千円と低く、国内では働き場が少ないため、男子は成人すると国外に労働場所を求めて流出し、出稼ぎや移民の合計は70万人を超えるといわれています。国内に住む多くの家族は、海外からの送金で暮らしており、政府予算の40%は海外居住者の送金で占められています。教育は小学校4年までが義務教育ですが、17才で高校を卒業します。それ以上の学力は海外に行き予備校に入り、大学に進むということでした。

F A Oカーボヴェルデ事務所訪問

9月20日、ピーター・バンドラ所長を訪ねて、この国で始めてクーラーの涼しい風に吹かれましたが、これが最初で最後でした。昨日、私達3名がプライヤ行きの国内便の座席を持っていなかった為、所長はじめF A Oの職員の方に大変ご努力をいただいて入島しており、初対面とは言え、欧州人らしい大様な受け入れに緊張感もとけました。

所長は、天然資源もなく、食料に至るまですべて輸入に頼るこの国へのF A Oの援助活

動の概要を説明され、その中のプロジェクトのひとつであった日本の援助倉庫は、首都ブライヤのあるサンチャゴ島、フォーゴ島、サントアンタオ島に建設し、いずれも野積みになっていた物資を保管することが出来、島民の生活の安定に大きく役立ち喜ばれており、これが呼び水となってイタリアが小型の倉庫を援助してくれたと語られ大変感謝をされました。

また、倉庫の責任母体は全国協同組合公社で、この公社は協同組合づくりをして農業、生協、職人の振興をはかることを目的に政府がつくったが、現在は自立していると説明がありました。

国の経済に占める農業の地位は約50%で、食糧の自給率は15~20%と低く、それが天候によって収量が左右されるため、政府は農業施策を重点としてすすめており、全国土面積の10%しかない4万ヘクタールの耕地のうち、灌漑が出来ているのは僅かに4,000ヘクタールで、年間降雨量が300ミリメートル以下では作物が育ちにくく生産があがらない。森林資源が乏しいため飲料水が足りず、農村地帯では、一日4~5時間かけて水汲みをしている状態。この国では国家開発計画を熱心にすすめているが、すべてを援助に頼らねばならず、農村開発及び環境整備のための援助が欲しいと切に思うと話されました。

この国は天然資源はないが、唯一の資源は



図2 運転手段は人の頭。これは女性の大切な仕事になっている。



図3 マメの種類は豊富で、市場ではこうして売られている

活動的で勤勉な国民性であり、国内では雇用の場がないため、成人に達した男性は島から出て海外で働くことが習慣となっており、そのため島には成人男性が少なく、人口の57%が15才以下という状態に政府は頭を痛めています。家族構成は老人・主婦・子供が4~6人位が普通で、女性が一家の農業と生活を支えている家庭が多い。農村指導対策として軽労で経済収益の高い養鶏をすすめ、5家族単位で農作業と鶏や家畜の共同飼育を行うよう指導しています。主婦農業で栽培している主なものは、とうもろこし、豆類(根菜)、バナナ、パパイヤ、砂糖キビ等です。

政府は国外援助を期待した国家開発計画を樹て、食糧自給の達成と砂漠化の防止に力を入れて来ており、中でも予防医療の普及で、平均寿命を1975年の46才から1983年には64才に延命し、アフリカ諸国で最高という成果をおさめました。今年第2次国家開発計画の最終年ということで、FAOではこの指導に深くかわり活動をすすめられていました。



図4 農協婦人部、青年部の力で作られた
外観もりっぱな倉庫

全国協同組合開発公社訪問

カイデイド・サンターナー総裁と生協担当のマダムローザ・ロンバさん他に出迎われました。総裁はまず協同組合の出したプロジェクトをとりあげて援助倉庫を建設したことへのお礼の言葉と来国の労をねぎらわれ、昨夕の飛行機に私と同乗していたと話されるなど、人をそらさないウイットに富んだ対応をされ、行政マンとは違った運動推進者らしいエネルギーなものがにじみ出てくる方でした。

総裁は、1978年政府の手によって全国協同組合公社が「協同運動をもちたて、組織づくりをすすめる」を目的に設立されましたが、現在は非政府機関として独立しています。この12年間に地方にいろいろな協同組合をつくり、運動をもちたてて来ましたと話され、協同組合の組織機構は本部→地域→島内組織と成っており、協同組合数は247組織があります。このうちの40%が生協組織で、組合員の80%が生協利用者であります。

協同組合には、生活協同組合、家畜協同組合、農協加工組合、各種職人組合があり、ロンバさんの生協は離島への生活物資の供給と購入活動をしており、多くの組合員をもち組織運営が立派に出来るのでこの公社から独立することになりました。

しかし農業協同組合はまだ弱く援助が必要ですと話されていました。

農協婦人部による援助倉庫見学

首都プライヤの郊外の小高い丘の上に建てられており、20m×100mの2千㎡の大倉庫は大西洋上の空にくっきりと聳えていました。中には生活物資が品種別に整然と並べられ、この国で製造される袋詰めの塩とビールのほかはすべて輸入品でした。倉庫の入口には、銅板のプレートに農協マークを入れ、日本の農協婦人部と青年部が寄贈者であることが印されていました。運動の結実がこのプレートに凝縮されていると思うと感無量のものがありました。

倉庫に隣接して真新しい生協の事務所が建設され、中には、女性事務員が各島への伝票



図5 倉庫入口には農協マークとともに婦人部の拠出金について記されている。



図6 倉庫内部には援助物質などが保管されている。



図7 国産ビールを指さす生協指導者
マダム・ロンバさん

事務を忙しそうにっていました。総裁の申された生協の独立とは、この事務所に移り本格活動を展開されることを意味したものでした。この形ならば、倉庫がよく活用され、管理も行き届くだろうと内心安心したのは私のエゴでしょうか。

- 野菜の市場見学
- 裁縫協同組合「マルコの8」を視察
- 農村開発庁訪問

ヒルダア・サントス農・水産事務次官より、「まず援助倉庫が島民の生活に大変役立ち心から感謝とお礼を申し上げます。みなさんの素晴らしいプログラムが波紋を描き、倉庫を援助する国ができました。これも皆さんの組織の力によると讃えられるとともに、本来は大臣が出席する予定であったが、よんどころない国務が出来、大統領と同道して他の島に渡っており、みな様へはよろしく伝えるようにと申されてきました。」と話されました。サントス事務次官はフランス語で話され、これをFOAの所長が英訳し、FAOの中田氏が日本語で私達に伝えられました。

「この国の農業は、切り立った山の谷に強雨が降ると表土が流され、汗の結晶の耕地が一瞬のうちに破壊される手の打ちようのないところの開発からすすめており、耕地を増やそうにも可能耕地に限られ、食料の自給確保

に至難を極めている。その中でこの国で唯一穫れる穀物のとうもろこしは、天水農業のため自然災害を受けることが多く、国内自給率は僅か15%~20%に過ぎず、これは生産農家の食糧として消費されている。こうしたきびしい条件を克服するためにも、農業教育が大切と考えすすめてきた。私は日本の岡田茂吉氏の有機農法の書を読み感銘を受け、これをとり入れたいと考えている。

農村開発の優先事業に農地解放ととりくんだが、農地所有者の大半は海外の人であるため解放進度が遅いのが悩みである。国では買上げた土地を農民に貸与し、使用権は相続出来るようにしている。これを協同組合が政府の肩代りをして行い、農業振興をすすめてきた。

とうもろこしは、天水農法で作るため雨が降らねば育たない。種を播いても収穫皆無になる年も多いが、山岳地帯の農家は皆無の年があっても、繰り返して播いてしっかり頑張って作り続けている。国家経済から考えたら輸入した方が得である。しかし我々はこのとうもろこしを大切にしている。それは我が国にとってとうもろこしは宗教であり、文化であるからである」ときっぱり言い切られた。このうら若い為政者の厳たる姿勢に強く打たれるものがありました。



図8 首都・ブライアの中心は石畳の道路、街路樹が美しい。

農協婦人部による援助倉庫の贈呈式

倉庫に隣接して建てられた、生活協同組合事務所の展示ホールに、島内の報道人が詰めかけた前で行われました。

全国協同組合公社総裁のあいさつ要旨

日本の農協婦人部の援助で建てられたこの倉庫は島民の生活に役立っています。すべての物資を輸入に頼るこの国では今まで野ざらしにして積んでいました。この倉庫が建設されたことですべての物が保管出来るようになり、島民の要望に合わせていつでも供給が可能になり、協同運動の推進の上にも大きく貢献をしています。

さらに、このプロジェクトの成果が呼び水となり、イタリアから小型の援助倉庫が送られてきました。これも日本の婦人部のおこされた活動のお蔭と深く感謝申し上げるものです。我々はこの倉庫を大切に守り、使用します。

全農協・全青協の援助倉庫贈呈あいさつ要旨（竹部）

この国に招聘をいただき、立派に建ち上がった倉庫を視て心から嬉しく思います。これもカーボヴェルデの方々の正直で勤勉なご努力によるもので、島民の力で、私達の念願の倉庫を立派に建設していただきました。日本の農協婦人部員は240万人です。日本では毎年人件費や諸物価が高騰しているなかで、基幹食糧である米価は毎年引き下げられて、農家の暮らしは決して楽ではありません。その中であって、アフリカの飢餓状況が伝えられると、募金をつのり援助しようと運動に立ち上がりました。募金の使途は現地の農業の振興と生活の安定に役立ててほしい、との願望をもち行動を起こしたのです。その運動の結晶で出来上がったこの大倉庫を部員に見せたら、さぞ喜び祝福することでしょう。これを総裁にお渡しいたしますので、末永く大事に使用

されて、みなさまの生活に役立ててください。

なお、生協のセンターを隣接されたことは倉庫の活発な活用につながり、発展に貢献できると思います。

21世紀をつくる若い人達の生活基盤に役立つと信じ、カーボヴェルデ国の益々のご発展をお祈りし贈呈のことばとします。



図9 倉庫に隣接した事務室にて
全国協同組合公社主催歓迎レセプション。

9月21日 サンチャゴ農村地帯視察

- 農業協同組合「11月13日」集団農場訪問
- 消費協同組合「昨日の夢」訪問
- 米国援助で建てられたパダラベインジ第1小学校を訪問

カーボヴェルデ共和国訪問にあたり、私はこの国の子供達のためになるものをと考え、鉛筆と消しゴムを用意していきました。ところが現地は夏休みで手渡すことはむづかしいと言われて、半ばあきらめていたところ、みなさまの努力でこの小学校が生徒を集めて迎えてくれたのでした。

この学校は先生が21名、生徒数は712名で、校長先生、担任の女教師、40名余りの生徒が集まって迎えてくれました。校長先生のごあいさつに続いて担任教師の指揮で「カーボヴェルデはよいお国」の歌を合唱してくれました。前の晩、家の光から持参された千代紙で、「はばたいて飛ぶ折鶴」を一袋に入っていた千代紙全部を折りあげて持参しました。こど



図10 バダラベインジ第一学校
で子ども達の歌の歓迎

も達の前で鶴をばたばた動かすと、目を丸くして凝視し、担任の先生もびっくり顔でしたが、早速折り方を教えてほしいと言われ、いっしょに折りました。生徒も先生もとても喜んでいただき名残りを惜しみ乍ら別れて来ました。

お蔭で持参した鉛筆と消しゴムは、この小学校と「11月13日」集団農場の子供達に通っている小学校に2分して贈ることが出来ました。

裁縫組合訪問

この日の視察は、FAO所長ご夫妻と職員、生協のマダム・ロンバさん他の案内で1,000メートル級の山路を越えての訪問視察でした。驚



図11 国の援助で設立の11月13日農場では、灌漑施設により野菜、ジャガイモなどを作っている。



図12 裁縫協同組合にてお手本を示す

いたのは碎石で敷きつめた石畳みの広い道路がずっと続いていたことでした。この碎石は島で採れた石を切って端々に敷きつめるということで、この熱い国の勤勉な国民性が表れていると思いました。

昼食には郷土食カチューバ（とうもろこし粥）を島の東海岸の突端にあるレストランで、前日から炊き込み準備をした郷土食を、着任されてまだ日の浅い、この国でたった一人の日本人の石原氏（日本水産）といっしょにご馳走になりました。餅のようにうまみのあるとうもろこしで舌ざわりもなめらかでした。自給とうもろこしでない絶対この味が出ないとのことで、ここでも人間の食するものと郷土との深いつながりを見ました。

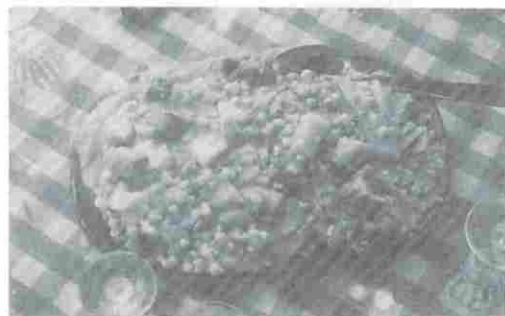


図13 カチューバは、とうもろこしを主な素材とした主食。肉や野菜もたっぷり入る。

1日半の各地への訪問に、常に行動を共にしていただいたマダム・ロンバさんへ“農協婦人部のバッチ”を贈ったところ、「私達も日本の農協婦人部のようになるよう頑張ります」とはにかむように言いながら、大きな瞳で私をしっかりみつめていました。口数が少なく、訪問生協では信頼感を持って迎えられていた、この親しみの湧く若い女性運動者の面影を、私はいつまでも忘れることはないでしょう。

訪問した9月はこの国の雨期の真只中で、はげしいスコールに2晩あいました。農家にとってはとうもろこしが育つ恵みの雨とのことでした。島は緑に覆われており、乾期に入ると全島褐色に変わり、今が一番きれいなときと言われ幸運でした。果てしなく広がる濃紺の海、コバルト色の空、輝く太陽、そして緑の島に点在する赤い屋根と白い壁の家々、言葉は通じなくてもニコニコしながら嬉しそうにしていた島の人々や子ども達のくりくりしていた表情が臉に焼きついています。

驚いたことは、農業開発施設、海水の淡水化施設、校舎、教会、車のすべてに〇〇国援助の言葉がつくことでした。また、人ものんびり、動物達ものんびりしているのでついなでたりしたくなります。「さわっちゃいけない。狂犬病が、伝染病がうつるから」の聲が飛んで来ました。実は私達は渡航前に2種類の予防注射をしたのみでしたが、FAOの所長婦人が、ハンガリーで7種の予防注射をして夫の着任先に来たと言われ驚きました。そして大人の数に比べ何と子ども達の多いことか。移民の殆どが男性であり、その結果、伝統的家族制度がこわれているとのことでした。

これらの課題の解決には、島民性を生かした人づくりを強力にすすめ、優秀な若者達が自ら手で開発に当り発展の道を開くことが鍵ではなかろうか。私達を歓迎された協同組合公社総裁は43才であり、この国を牛耳るリーダーは40才前後と聞き、その道を歩きはじめているのではないのでしょうか。

この度、農協婦人部援助倉庫建設視察訪問の先々で、「倉庫が島民の生活に大きく貢献しており深く感謝しています。続いて日本の農協婦人部の援助プロジェクト選定の着眼と、募金力は素晴らしい」と讃える言葉を受けてきました。240万部員がおこした行動が、海外で「貢献」という大きな花を咲かせていることを、みさまに1日も早く知らせたいと念じてきました。たまたま全共連の無共済バイク点検運動を展開して、組合員家庭から悲劇を追放する推進運動にあわせて、「ふれあい」に掲載してお知らせをする好機に恵まれたことは、感謝の他言葉がありません。更に日本一の雑誌発行力を誇る「家の光」には、平成3年1月号の41～43頁のグラビアで解り易く報告をされ、「FAITH」にも掲載して組織外の人々にも、農協婦人部の活動を紹介していただきました。これもひとえに全農協協桜井事務局長をはじめとした、スタッフの蔭の御努力によるものと厚く御礼を申し上げます。

この一連の広報活動により、世界に翔いた農協婦人部が、わたしを含めひとりひとりが自らの運動と確認され、燦々ときらめく農協婦人部員としての自信と誇りをもって進まれるよう願って止みません。